

・

オーロラの出現の頻度、オーロラ・ディスプレイ（実際に見えるオーロラの実体）、それにブレイク・アップ（オーロラ爆発）などは、すべて太陽活動…特に太陽のフレアや黒点の活動の活発さに異存しています。いわゆる「磁嵐」が発生すると、数日後にすばらしいオーロラが出現することが多いです。この太陽活動の活発さは、およそ 11 年から 13 年周期で一巡することが知られています。2024 年はそのピークと考えられていて、確かに私の観測でも非常に明るいオーロラが出現していました。

しかしこの「周期」はピークの年を挟んで 1～2 年は継続することも多く、今年も秋のオーロラシーズンに入って早々、大スケールのオーロラが連日出現しています。現地の友人からの LINE でも、今年のオーロラはすばらしいという報が入っています。

オーロラは地表（または海上）からせいぜい数百 km の大気圏内で発生します。当然、観測者から見て恒星よりもずっと手前なのですが、時には星（恒星）のほうが手前に見えると錯覚することもあります。この写真には北斗七星が写っています。関東地方では北斗七星の一部の恒星は、わずかに地平線下に没します。しかし緯度の高い北極圏では北斗七星は完全に周極星で、一年中沈みません。ほかにもこと座、白鳥座などもすべて周極星になります。

この写真の北斗七星は、何となくオーロラよりも手前にあるように見えます。写真だけでなく、実際に現地で肉眼で観望してもそう感じる場合があります。逆に、バンド・オーロラ（カーテン状のオーロラ）が、手が届きそうなほど近くに見えることもあります。「何もない宙が光る」という現象がオーロラです。観る者を神秘の世界にいざなう存在なのでしょう。

（スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス駅／東京から遠隔観測）

